

「バイタル総合研究所 メンバー紹介」

医療顧問 | 御川 安仁

MIKAWA YASUHIITO

医師・医学博士

- 日本麻酔科学会麻酔科指導医・専門医・認定医
- 厚生労働省認定臨床研修指導医
- 日本救急医学会救急科専門医
- 日本抗加齢医学会専門医
- 日本統合医療学会専門医
- 日本DMAT(災害派遣医療チーム) チームリーダー
- サプリメント療法認定医
- 日本予防医療協会予防医療診断士
- EUROPEAN WELLNESS Multi Dimensional Holistic Medical Team Japan 公式認定医(再生医療)
- アーユルヴェーダ医師コース修了
- YNSA(山元式新頭針療法) など



1967年兵庫県出身。

兵庫県の星空が間近に見える田舎で、ラーメン屋を家業とする両親のもとに育つ。

幼少期より宇宙少年で、小学生の時「宇宙空間には真空で何も無い」と学校で教えられるが、「そんなはずはない! 必ず何かが存在するはず」と直観。その何かを解明するために宇宙物理学者を夢に持った(現代物理学でダークマター〈暗黒物質〉というものが解明されつつある)。その後、医師の道へ進むが、「人間は小宇宙である」という言葉のとおり、かつて宇宙に向けていた探求心は人体という「内なる宇宙」に向けられる。

岡山大学医学部を卒業後は、長く救命救急医療の現場を経験し、医長・センター長を歴任。研修医時代にはじめて担当した交通事故の女子高校生において、奇跡的回復を遂げたものの重度の後遺症が残る結果となり、現代医学の限界を痛感する。この経験等を契機に、東洋医学、分子整合医学、アーユルヴェーダなどの伝統医学を自費で学び続ける。

また、研修医時代よりマグネシウムをはじめとする栄養素の重要性に着目し、救命救急の現場にいち早く導入するなど、従来の枠にとらわれない治療を実践。

2015年に東京・四谷にナチュラルアートクリニックを開院し院長に就任。

臨床現場において豊富な栄養療法の経験を持ち、独自に確立した「ハイブリッド栄養医学®」を実践する、分子栄養学・統合医療の分野における日本を代表する医師の一人。

2013年に発表した論文「Low serum concentrations of vitamin B6 and iron are related to panic attack and Hyperventilation attack」(血清ビタミンB6濃度と血清鉄濃度の低値はパニック発作、過換気発作に関連している)は、世界中で評価され多くの学者に引用されている。

○臨床報告:『クリスタルザイム KALA 飲用によるファスティングの安全性と有効性における Preliminary 臨床試験報告』(2017年・分子整合医学美容食育協会)

○著書:『疲れがとれない原因は副腎が9割』(フォレスト出版)
『だるさ一掃 × よく眠れる × 自律神経が整う 1日1杯疲れのおそうじスープ』(アスコム)

医療顧問 | 佐野 正行

SANO MASAYUKI

医師・医療相談専門医・産業医

- 株式会社メディカル アンド ナレッジカンパニー 代表取締役
- 日本産業医協会 会長
- 病にならないためのオンラインクリニック 院長
- 日本養生セルフケア協会 代表理事
- 漢方養生学研究会 会長
- 予防医学・代替医療振興協会 学術理事



愛知県名古屋出身。

10歳の時、潰瘍性大腸炎のような「大腸が水分を吸収できなくなる」状態となり、夏休みの約1ヶ月間を入院して過ごす。成長期であったため発育や運動能力に悪影響を受け、身長が小さいグループになり、早く走ることもできなくなり、心身ともに大きな負担を経験する。

その一方で、医師・看護師・医療スタッフの温かく丁寧な支えに触れ、「人を支える医療」の尊さを実感。この経験をきっかけに、「病気になるように支える医師になりたい」と強く志す。

1995年 名古屋大学医学部卒業後、外科医として国立がん研究センター中央病院、名古屋大学医学部附属病院などで研鑽を積み、3000人以上の手術に携わる。がん治療、緩和医療の現場で経験を重ねる中で、「病気を治すこと」と「その人がしあわせに生きること」は必ずしも一致しない現実に向き合い、医療の在り方を深く探求するようになる。

その後、「こころ・体・人間関係(環境)」を整えることが、人の本質的な健康としあわせに繋がるという考えに至り、2011年に株式会社メディカル アンド ナレッジカンパニーを創業。医療相談専門医として、治療にとどまらず、予防医療・生活習慣改善・メンタルケア・人間関係の調整など、全体を整える医療を実践している。

「ウェルビーイング(しあわせで満たされた状態)」を軸に、こころと体の両面から整える支援を行い、延べ10000人以上の健康相談・人生相談に関わる。産業医としても約40社に関与し、労働環境改善、メンタルヘルス対策、生活習慣改善などを通じて、企業の健康経営に貢献している。

また、食事・腸内環境・休息の重要性に着目し、医師として「安心・安全に行うファスティング」の必要性を実感。バイタルファスティングを、医師が推奨できる実践的な健康法として提唱し、多くの人の体質改善・未病予防・自己回復力の向上をサポートしている。

現在は「白衣を着ない医師」として、国内外で研鑽を重ねながら、医療・教育・企業支援・講演活動を通じて、「しあわせで健康で豊かな生き方(ウェルビーイング)」の普及に尽力している。

○HP: <http://dr-masa.com/prof/>

○メルマガ「ベストエイジング思考」: <https://maroon-ex.jp/fx280801/bHAHe0>

医療顧問 | 野口 勇人

NOGUCHI HAYATO

医師・産業医

- 総合内科医
- 日本医師会 認定産業医
- Drug Free World Japan(旧薬物対策協会) 講師
- 放送大学 非常勤講師
- 大手健康食品会社 顧問・相談業務
- 一般社団法人日本姿勢教育協会 特別講師・顧問
- 北海道大学 教養深化キャリアデザインカフェ講師 など
- 日本大学医学部卒業



1977年埼玉県出身。

5歳の時から「この世で一番、《医者らしくない》医者になる!」ことを目指してきた変わり者。医者になる決意が早かったのにもかかわらず勉強がどんどん苦手になり現役時代、大学受験に失敗。浪人当初、偏差値20台からの医学部受験に挑戦することに。

浪人時代に予備校の講師から「大学受験の出題は約7割が中学3年から高校2年までに学ぶ範囲」というデータを得て、受験にパスするには基礎を理解することが大切であると気づき、ひたすら中学時代の勉強の復習に取り組む。

その結果、わずか3ヶ月で偏差値は一気にプラス30以上上昇し、1年間の浪人で医学部に合格。

ところが、医学生と研修医の時に心身ともに調子を崩し、20代にして《寝たきり》状態になるほどの不調を経験。

それを乗り越えた研修医時代に、オーストラリアにある薬物リハビリテーション施設へ留学。そこで「薬だけでは、決して人の代わりに病気を解決してくれはしない」ことを痛感すると同時に、病の真の原因と免疫、栄養の大切さを学んだ。

帰国後、できる限り薬に頼らない全人的なケアをサポートする総合的な医療活動に従事。

2019年に野口基礎医療クリニックを開院。

その他の活動として、予防医学やセルフケアをテーマとした各種講演活動および動画出演、特別養護老人ホームでの産業医活動、自宅でも可能な指先からの微量採血キットによるヘルスケアおよび全国から集まる血液データ解析にも力を入れている。

○臨床報告:『バイタルファスティングが免疫細胞の数および割合に与える影響』(2023年・分子整合医学美容食育協会)

○著書:『免疫を高める食事』(三和書房)

医療顧問 | 田中 利尚

TANAKA TOSHINAO

歯科医師・整体師

- 米国St.Petersburg 短期留学、咬み合わせの権威Dr. Dawsonに師事
- 抜かずに治す歯槽膿漏 片山恒夫先生師事 二次セミナー修了
- 日本口腔インプラント学会 (フィリピンイースト大学、ハワイ大学、韓国、ドイツなど海外研修修了)
- 日本抗加齢医学会専門医 (アンチエイジング、抗酸化物質、サプリメント)
- 日本全身咬合学会 (全身症状と咬み合わせ、顎関節症、重力、直立、姿勢)
- ドライマウス研究会認定医
- 聖士会館にて整体免許取得(最先端の光治療、つぼ療法、波動療法等)
- さとう式リンパケア上級講座修了 など
- 日本歯科大学生命歯学部卒業



1964年東京都練馬区出身。

父方母方の祖父も歯科医という歯科家系の三代目。

高校時代、自転車で北海道や四国までひとり旅をし、3日目にしてホームシックになり、初めて日頃の当たり前を感謝することに。

大学時代は少林寺拳法部・体育会会長をつとめ、「昭和の体育会系」の洗礼を受ける。

ビールは「最初の1ダースがうまい!」という先輩を相手に、日本酒一升瓶一気飲みなど、今では考えられない体育会系の学生生活を送った。

「食生活と身体の退化」(ウェストン・Å・プライス著)を日本に紹介した片山恒夫先生に師事して歯科の歯周治療を習得。

咬み合わせの大家ドーソン博士に師事しアメリカで「咬み合わせ」を学ぶ。

虫歯や歯周病などすべての歯の疾患は、細菌よりも「見えない力」が本当の原因であることを臨床を通して確認し、姿勢や骨格構造、整体などの必要性を認めた。

「万病は血液循環不良」という考え方に接し、正しい食事で血液を綺麗にし、咬み合わせと骨格構造を矯正することでより血液循環を促進という統合医療を治療方針に。

「歯を壊してしまう力を抑制する」ために、西洋医学はもちろん東洋医学や量子力学的波動療法など、ありとあらゆる治療法を駆使して身体を治癒に導くことに努めている。

片山恒夫先生が遺した「総合病院の院長は歯科医がやるべき」という言葉を引き継ぎ、健康の源は「歯」にあるとの信念で、日々現場に臨んでいる。

ホノルルマラソン・ホノルルトライアスロン完走(トライアスロンの神様Dave Scott 氏から直接指導を受ける)。

当時話題になった霊能者のサイババに導かれて、インドへ渡航して面会に行くという経験も。歯科治療の理想を実現するために、1995年秋田県にてケテル歯科医院を開院。秋田時代に世界中をまわり、2014年に東京の西麻布に移転開院し、現在に至る。